育児休業取得状況等報告書

【企業担当者記載欄】

1　企業名	社会福祉法人ひかりの家

2　貴社の取組状況について

（1）男性の育児休業促進に取り組むきっかけ・背景

当法人は、20 年以上にわたり児童発達支援センターを運営し、子育て支援・家族支援に取り組んできた。こうした支援を担う法人として、父親も積極的に育児に関わり、仕事と子育てを両立できる環境づくりを自ら実践することが重要と考え、男性職員の育児休業取得促進に取り組んだ。

（2）男性の育児休業取得促進にかかるこれまでの取組

育児休業制度に関する情報提供や個別周知・意向確認を実施するとともに、施設長会議等を通じて制度利用への理解促進を図った。相談しやすい体制整備を行い、育児休業を取得しやすい職場づくりに努めた。

（3）取得促進にあたっての課題とその解決策、工夫した点

福祉現場では人員配置の確保が課題であったため、早期の取得申出を受けることで業務調整や複数職員による業務の共有化を行い、休業取得時の職場負担の軽減を図った。

（4）取得者がいる職場の業務継続のために取り組んだこと

担当業務の引継書を作成し、関係職員との事前打合せを実施した。また、応援体制の整備により、利用児サービスに支障が生じないよう対応した。

（5）定着に向けて、更に取り組んでいることがあれば教えてください

育児休業制度や育児関連休暇制度の継続的な周知を行う。今後も職員が育児と仕事を両立でき、男性職員も安心して育児休業を取得しやすい職場環境の整備を進めていく。

【対象従業員記載欄】

1　育休取得期間	通算　　51 日間

2　育児休業の取得について

（1）育児休業を取得したきっかけ

第一子ということもあり、妻と協力しながら子育てを行うため

（2）育児休業を取得して良かったこと

妻や子どもとのコミュニケーションを多く取ることができ、今まで以上に家族の絆が深まった。

（3）育児休業の取得にあたり、円滑に業務を引き継ぐ上で工夫した点

日々の振り返りや取り組んでほしい活動などを担当の職員に記録したノート等で共有した。

（4）育児休業の取得経験を通して業務に生かせていること

育児を通して子どもの様子を見て、「今できること」「後に回してもよいこと」などを判断する力を養うことができた。業務においても、優先すべき仕事などへの判断が以前に比べてできるようになった。

また、家庭内でさまざまなコミュニケーションの方法を身に付けることができた。妻とは、育児の役割などについて無理のない範囲で行えるように建設的な話し合いを行うことができた

息子とは、表情や泣き声から要求を汲み取る力を身に付けることができた。

業務においても、場面や立場などで様々なコミュニケーションを取っていけたらと思う。

（5）これから育児休業の取得を検討している方へのアドバイス

子育てを通して、家庭でのやり取りが増え、さらに絆が深まった。２度とこないこの時期を、楽しい思い出に変えるために育休は取得した方がよい。